

平成29年度子どもの家庭養育推進官民協議会研修会

フォスタリングチェンジ・プログラム

長野大学社会福祉学部
上鹿渡和宏

社会的養護当事者の声

NPO法人社会的養護の当事者参加推進団体(2009)

『日向ぼっこ』と社会的養護」明石書店

施設で生活した私が施設に求めるのは

「いっしょに生きてくれる人」を失った子どもたちにとって、

「いっしょに生きてくれる人」が見つかる場所

であってほしいということです。

既存の里親研修の見直しの必要性

- 日々の生活の中で生じる子どもへの細かな対応については、里親自身が子どもの問題行動に目を奪われるのではなく、子どもの真のニーズを見極めて対応できるようになる必要がある。
- 日常における里親の里子への様々な対応は、里子との良好な関係を築く過程でもあることに十分留意する。
- 里親にとって意味のある楽しい研修が、必ずしも子どものニーズを実際に満たすものとなるわけではない。子どもが実際により良い成果を得られるかどうか問われなければならない。

フォスタリングチェンジ・プログラム 開発の背景

- 英国では社会的養護の7割程度はすでに里親委託。
- 不調のケースも多くあり、実効性のある支援システムの必要性が指摘されてきた。
- これまでに様々な研修が実施され、その成果と課題が明らかにされてきた。
- 子どもと養育者の両方に明確な効果をもたらすものはなかなか出てこなかった。次のような問題点も挙げられている。

これまでの研修(英国)の問題点

- 里親になる前の研修ではなく、里親になってからの研修の不足
- 里親になってからは一貫性のない単発の研修ばかり
- 里親が研修に満足していても、子どもの状況が変わらない

開発経緯 1

- アタッチメント理論、社会的学習理論、認知行動療法に
基き、ペアレントトレーニングの考えも取り入れて1999
年にロンドンのモーズレイ病院の専門家チームが開発。
- 2009年にはDepartment for Children, School and
Families (DCSF: 子ども学校家族省)よりイングランドの
152の自治体でファシリテーターを養成するトレーニング
プログラムを実施するための助成金が付与された。
- プログラム実施のために同年フォスタリングチェンジ・ト
レーニングセンターも開設され、2010年終わりまでファ
シリテーター養成コースが(受講無料で)実施された。

開発経緯 2

- その後、現場での実践と評価を経て2011年に改訂版のマニュアルが出版され、これに基づいて無作為化比較試験(RCT)が2012年に実施された。
- 社会的養護下にある子どものかかえる問題、特に様々な虐待の影響に配慮した子どもの理解とそれに基づく対応について、効果的な褒め方やアテンディング、限界設定やタイムアウトなどについて**学びながら実践し自分で考え対応できるように**なることを目指すプログラム。

プログラムの実際

- 最初にファシリテーターとなる担当ワーカーが里親宅を個別に訪問し規定の聞き取りを実施(その情報をグループでのセッションに生かす)。→ [資料参照](#)
- ファシリテーターの個別訪問による事前の関係づくりによってプログラムへの里親の参加・継続率が高く維持されている。
- 週1回3時間程度、里親グループでのセッションを12回(約3か月)継続。1グループあたり6~10人の参加。

参考図書

『子どもの問題行動への理解と対応 里親のためのフォスタリングチェンジ・ハンドブック』

福村出版(2013年)

『フォスタリングチェンジ 子どもとの関係を改善し問題行動に対応する里親トレーニングプログラム【ファシリテーターマニュアル】』

福村出版(2017年)

セッション内容

	題目	具体的内容
1	グループの立ち上げ、子どもの行動の理解と記録	子どもの経験、発達に関する理解と問題の再認識
2	行動に影響すること、先行する出来事と結果	アタッチメント理論、社会的学習理論、ABC分析
3	効果的にほめること	子どものニーズと不適切な養育の関係、養育者自身の経験の話し合い
4	肯定的な注目	遊びの役割、アテンディング、説明的コメント
5	子どもが自分で感情をコントロールするためのコミュニケーションスキル	子どもの感情理解とコントロール能力への注目、子どもの視点
6	子どもの学習を支える	教育の状況、特別なニーズ、読むことの支援、マイナスの自動思考

セッション内容(続き)

	題目	具体的内容
7	ご褒美とご褒美表	アイ(私は)・メッセージ、適切な行動への変化とその強化
8	指示を与えること、選択的に無視すること	効果的な指示、賞賛、無視の方法
9	肯定的なしつけと限界設定	家族のルール、自然な結果、合理的な結果、子ども自身の学びを支持
10	タイムアウトと問題解決のための方法	適切なタイムアウトの実施方法、問題解決方法
11	終わりにあたってのまとめ	子どものライフストーリー理解を助ける、次の学校への移行、内容のふりかえり
12	今後について、養育者自身のケア	支援者のケア、自尊感情の重要性

フォスタリングチェンジ・プログラムの特徴

- 子どもとよい関係を作り問題行動に対応するための様々な方法を紹介
- 子どもの視点を重視し、子どもの問題行動をどう理解するかを意識しており、里親に個別の「答えを与えるプログラム」ではなく、里親が「自分で問題を見つけるための方法や考える枠組を与えるプログラム」
- 里親自身の自尊感情や自信を回復するという支援者支援の観点が含まれていることも特徴

フォスタリングチェンジ・プログラムに関する評価

- 養育者自身が最も困難と感じていた問題への影響は大きかった。対象とした子どもにも、そうでなかった子どもについてもいえた。
- 子どもと養育者との間のアタッチメントについても介入群で改善が見られた。
- 養育者自身の自信やペアレンティングの実践についても良い変化が見られた。
- トレーニング参加者の多くが自信を得て、自尊感情を回復し、ストレスが少なくなり自分の知識やスキルが増えたと感じている。

Briskman,J., Castle,J., Blackeby,K., Bengo,C., Slack,K., Stebbens,C., Leaver,W., Scott,S. (2012)

Randomised Controlled Trial of the Fostering Changes Programme, National Academy for Parenting Research, King's College London, Research Report DFE-RR237

「全ての問題に対して答えが得られるわけではありません。・・・あなた自身のやり方、あなたの家でのやり方で子どもを助ける方法がこのプログラムによって得られるでしょう。・・・子どもと良好な関係づくり、・・・子どもだけでなくあなた自身や生活を共にする他の家族にとっても毎日がより過ごしやすくなることでしょう・・・**長期的には、子どもがより適切な行動を学ぶことによって子ども自身の人生が変わる可能性があるのです。」**

フォスタリングチェンジ関連プログラム

- ①12+・プログラム・・・思春期年代対象
- ②アダプションチェンジ・プログラム・・・養子縁組家庭対象
- ③ケアリングチェンジ・プログラム・・・現在ウェールズでの展開の中で(小規模)施設対象に検討中

①②はフォスタリングチェンジ・プログラムを基盤に作成されたパワーポイント、配布資料あり(英語版)。

ファシリテーター養成コースを受講し、里親向けプログラムの実践経験があれば、①②③実施にかかわる若干の講習等追加で対応可能と思われる。

(ただし、資料の日本語への翻訳が必要)

フォスタリングチェンジ・プログラム日本導入の経過

2011年5月 英国で研究調査中にフォスタリングチェンジを知る

2013年11月 ハンドブック出版

2015年 SOS子どもの村JAPANと福岡市こども総合相談センター、日本財団の御支援により企画委員会が組織された。

2015年8月～2016年3月 上鹿渡英国での調査研究時に自治体(ハンプシャー)での実施状況確認とフォスタリングチェンジ・トレーニングセンターとの日本への導入に向けたやり取り。

2016年3月 第1回ファシリテーター養成コース福岡での実施、その後コース参加者のためのフォローアップミーティングの継続開催

2016年5月～ 福岡と熊本での里親向けプログラム実施

2017年2月 ファシリテーター用テキスト出版、第2回養成コースを東京で実施(長野県、山梨県、横浜市、千葉県、宮城県、静岡市、三重県、東京都、大阪、福岡)

2017年4月～ うえだみなみ乳児院によるその後のフォローアップミーティングと各地での里親向けプログラム実施

2017年度実施予定と今後について

- 2017年度は全国で11か所で里親対象にフォスタリングチェンジ・プログラム実施
【2017年5月～】 静岡市、山梨県、三重県、福岡県(清心乳児園)、福岡市
【2017年9月～】 東京都(二葉乳児院)、長野県(うえだみなみ乳児院)、宮城県、
千葉県、熊本県、大分県
- 2018年3月:第3回ファシリテーター養成コース実施予定(その後2018年夏に第4回、2019年春に第5回を検討中)
- 事前事後質問紙を活用して実践の成果を客観的に評価していくことも検討中
- 開催地ごとのフォローアップミーティング・・・情報共有の場としての機能にも注目
- ファシリテーター自身の専門性を高める・・・個別の助言にも生かされる
- 12+やアダプションチェンジ、ケアリングチェンジ等関連プログラムの日本語版作成も検討
- Skills to Foster 日本版の必要性・・・どのフォスタリング機関も活用できる認定前研修が必要では？